

台東区立竹町幼稚園では とうきょうすくわくプログラム



に取り組んでいます

ア、活動テーマ…【自然】

いろいろな生き物・自然物・自然現象に興味関心をもって、「何だろう」「不思議だな」「どうしたらいいだろう」と、自分なりに考えたり、五感を使って自然を感じたりしながら、関わりをより深めていくために、テーマを設定しました、

イ、活動スケジュール：幼児の遊びの取り組み…年間を通して
自然教室…年間2回

ウ、活動のために準備した素材や道具、環境の設定

電子顕微鏡、透明の容器、幼児の動きに応じた素材など

エ、探究活動の実績

活動①「かたつむりって何が好き？」＜年長きく組＞

自然教室中に見つけたカタツムリを学級で飼うことにしました。

カタツムリは何を
食べるんだろう



卵の殻だよ

卵の殻なんて食べ
ないんじゃない？

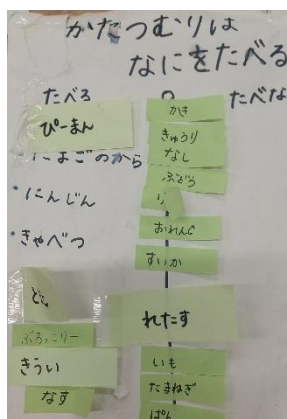


お家から持っ
てきてあげて
みよう！

子供たち同士で相談し、持ち寄れる子がエサを持ってきて、カタツムリが何を食べるのかを調べることにしました。

「卵の殻は食べたね」「ピーマンは苦いから食べないかな」「切り方を変えたらどうだろう？」など、「何が好きかな？」「どうしたら食べるかな？」と予想したり考えたりし、実際にカタツムリにあげ、よく観察しました。

先生に付箋に書いてもらったエサを
“カタツムリはなにを食べるか一覧表”
に貼っていきました。現在、カタツムリ
が食べなかったのは、きく組が収穫し
た、生のサツマイモだそうです。そし
て、一番のお気に入りには切ったミニト
マトだそうです。



活動②「今日も色水やりたい！」＜年中さくら組＞

保育室前のテラスで、おもしろい花や遊びに使っても良い草を使用して、色水遊びを始めました。

色が出ないなあ
もっと出てほしい



葉っぱをたくさん入
れたらいいのかな



お花と葉っぱ混ぜたら
こんな色になったよ！

できた色水はテラスにとっておくことにしました。

週明け、色水遊びを始めようとする「先生、くさくなってる！」と色水の変化に気が付きました。

教師は「暑かったからかな、腐っちゃったのかな」と言い、子供たちは、新しく色水を作ることにしました。片付けの時に「先生、置いておくと腐っちゃうから冷蔵庫に入れて」と幼児が言いました。教師は「そうだね、冷やしておいたらどうなるだろうね」と、カップをラップに包みビニール袋に入れ、野菜室の隅に入れました。

さて、翌日、色水はどうなっていたかと言うと…。「くさくない！」色水を冷やす作戦は成功しました。

「良かったね」と子供たちは、色水遊びを繰り返しました。



活動③「水あつまるかな」＜年少もも組＞

雨が降った日、テラスに張ってあった日よけのシートから、水が垂れているのを子供が見ていました。

カップやペットボトルがあったら、
子供たちは水に関わっていくかしら



目につくところに
置いてみよう

子供たちは水がカップやペットボトルに入ったことを喜んで面白がっていました。「上手く入るにはどうしたらいいかな」「たっぷりにするにはどうしたらいいかな」と、容器を変えたり、背伸びをしたり、場所を変えたりなどしてよく考えていました。

しばらくすると、「水が出なくなってきた」という子がいました。「なんでだろうね」と教師が言うと、その子は「雨がやんだんじゃない」と言い、他の子は「そうだよ、これ雨だからね」と言いました。



オ、振り返り

- ・友達や学級で共有することでより探究が深まったり、関心がなかった幼児も興味をもったりできるようになる。
- ・それぞれの興味や気付きを一人の気付きで終わりにせず、教師が図鑑や写真などを活用し、全体に伝えるような環境作りをしたり、降園時などで知らせたりする。
- ・興味が持続せず、探究が深まらないときには、視覚的に分かりやすいように、一覧を写真に撮って貼ってみるなどの環境の工夫が大切となる。
- ・家庭にも可能な範囲で活動の協力を求めることで、保護者も共に考えたり楽しんだりすることが、探究広がることにつながる。

台東区立竹町幼稚園では とうきょうすくわくプログラム に取り組んでいます



ア、活動テーマ…【音楽】

様々な音に親しみをもち、音楽への興味関心を高めてほしい、楽器遊びでは、自分から関わって音を探しながら、鳴らし方や音色を楽しめるようにしたいと考え、テーマを設定しました。

イ、活動スケジュール：幼児の遊びの取り組み…年間を通して

英語による音楽活動…年間6回

講師によるコンサート、歌唱指導 年間2回

ウ、活動のために準備した素材や道具、環境の設定

幼児の気づきに応じて、音のでる素材・容器、音楽を流すカセットデッキ

エ、探究活動の実績

活動①「叩くと音が出て楽しいな！」＜年少もも組＞

1学期…カセットデッキを使い、自分たちの気に入った音楽を流すことを楽しむようになったもも組の子供たち。教師が「カタツムリ」の歌をピロティで流すと、ベンチに座って歌ったり、テーブルを叩いたりしている子供たちがいました。

リズムに合わせて音を出していることを楽しんでいるわ。
空き箱や広告の棒を用意したらどのように楽しむかしら



教師

子供たちは、教師と一緒に空き箱を叩いて音を出すことを楽しみ始めました。その音を聴いて他の幼児もやってきて、数人の幼児が同じ場で楽しみました。

3学期…幼稚園のみんなでお囃子の演奏を聴きました。篠笛、大鼓、小鼓、三味線などの音色を間近で聴いた子供たちは、その後の昼食の時間にも太鼓を叩く動きをしたりリズムにのって体をゆらしたりする姿が見られました。教師が積み木に紙皿を貼って太鼓に見立てたものを並べて置いておくと、自分たちで広告の棒を持ち出し、「ひなまつり」の曲をカセットデッキから流し「五人囃子ごっこ」を楽しんでいました。



これまでに経験をした
ことで、自分たちで遊
ぶ姿につながったのね



教師



活動② 「私の音とは違う音だね」 <年中さくら組>

使う物や中に入れる量によって音の違いがことに気づけるように、マラカスづくりのコーナーを用意しよう



教師

楽器作りを通して色々なことに気づいたり、友達の楽器の音に関心をもったりしてほしいという教師の願いから、容器・ビーズ・大きさの異なるキビポール・細かく切ったストローなどを用意し、マラカス作りができる場を作りました。

登園後、さっそく興味をもったA児とB児は、まずビーズを触ったり、すくってこぼしたりして感触を確かめていました。教師も一緒に作り、「どんな音がするかな」と声をかけると、音をよく聞く姿が見られました。



その後、学級活動で音遊びをしました。自分の作った楽器でも、カスタネットや鈴でも、自分の好きな楽器を持って集まりました。輪になって1人ずつどんな音がするか聞く時間を作ると友達の鳴らす音に見入を澄まし、よく聴こうとする姿が見られました。



活動③ 「雨って楽しいね！」 <年長きく組>

登園時、雨が降ったりやんだりしていました。

雨は嫌だなあ



C児

傘をさして幼稚園に来たら、すごい音が聞こえたよ



D児

どんな音が聞こえたの？



教師

どどどって！！

教師が「今は少しやんでいるけど、音はするのかな」と言うと、雨を嫌がっていたC児が「傘をさしてみてもいい？」と聞いたのでテラスで傘をさしてみることにしました。C児は「ぽっぽっぽって聞こえる！」D児は「トントントンかな？」と、雨の音に耳を澄ませ、音を聴くことを喜んでいました。それを見ていたE児は、プリンカップや透明パック、ままごとのボウルなどを持ってきてテラスの花壇の淵に並べ、音の違いを試していました。入れ物によって音が違うことに気がつき「このプラスチックがいいんだよ」と、言っていました。

その後、雨が降る日には、傘をさして雨の音を聴いたり、容器を並べて音の違いに耳を澄ませる姿が見られていました。

オ、振り返り

- ・「これをやって楽しかった」という経験が積み重ねることが後々の探究につながっていく。
- ・友達が近くにいる同じことをしているのが何となくうれしい実態があるので、「楽しいね」を共有することが大切である。
- ・違いに気付くことが探究につながるため、いろいろな音があることに気付けるようにする。そのことが、年中・年長になったときの探究活動や協同的な活動につながっていく。

～今年度学んだことを、来年度のすくわくプログラムの探究活動に活かしていきます～

